

自分にフィットする仕事

マックツールズ代理店 POWER ZONE



1 仙台市でMAC VANセールスを始めて15年目だという、POWER ZONE代表の野田忠夫さん。自身のスタイルについて訪ねると「ユーザーさんの間を自由に泳がせてもらっているだけです。」と語った。

野田忠夫さんは、98年から仙台市若林区でマックツールズの代理店として活動、常にトップクラスの成績を収めている。もともとモーターサイクルやクルマは好きだったが、実は工具には無頓着だったと言う。「この仕事については、セールスをしていた知人が『テリトリーを引き継がないか?』ともちかけてくれたのがきっかけでした。以来、ゆるく自由にやらせてもらっています。」

ゼロスタートではなかったこともあり、事業は順調に推移していった。しかし、3・11の震災でテリトリーの約70%が水没、取り巻く環境は一変した。「被災したユーザーさんそれぞれ、事業を再開するスタートラインも抱えている事情も異なり

ます。それまで以上に個々のニーズに合わせてよう心掛けるようになりました。」「ゆるく自由に。」と笑顔で語るが、仕事はとてもスピーディー。通常昼食も休憩も取らないそう。取材当日も終日動き通しだった。携帯に連絡が入れば、すぐ駆けつける。しかし、ガツガツ営業している、というわけでもない。「セールスとお客様の関係を越えて、『持ちつ持たれつオープンな関係』を築きたいのです。」と野田さん。ユーザーには何らかの恩返しをする、そういう気持ちで接することでユーザーも野田さんに信頼を寄せているのだろう。「MACのビジネスが自分にとって何なのか、まだよくわかっていないけれど、自分にフィットしている気がします。ハッキリ感じるのは『求められているから生かされている』ということ。ユーザーさんの間を自由に泳がせてもらっている、そんな感じです。」

自由で自然。陽気で飾らず、謙虚なスタイルが、野田さんの成功の秘訣なのかも知れない。

1: 野田忠夫さんはご家族も大切にしている様子。「先週末も9歳になる娘と愛車のKawasaki D-TRACKERで「青葉祭り」に出かけました!と顔をほころばせた。2: 最初の訪問先は、水上バイクの有名ショップ「マリンメカニック」。今崎真幸社長は東日本大震災の際、水上バイクを使って人命救助に活躍したそう。3: 「MAC製品は丈夫!と絶賛する「カーサポートオオカワ」の大川真社長は、津波で水没したツールボックスを今も使い続けている。4: 「Kei's factory」は、軽自動車をメインにアマチュアレースのサポートなどを積極的に行っているショップ。昨年の軽自動車耐久レース「東北660選手権」では、同社のマシンが優勝を果たした。

マックツールズという選択

憧れを手にする喜び、届ける喜び、そして仕事する喜び…。プロのメカニックに愛され続けているマックツールズを、MAC-VANとともにお客様へ届けてください。

MAC TOOLS とは

75年にわたり、プロフェッショナル・メカニックの厳しい要求を満たす製品を提供し続けるアメリカン・ベストツール。少ない資金で開業できるバンセールスという独自の販売方法により、アメリカ、日本をはじめ、世界のプロメカニックに最高のツールを提供しています。現在日本では、MAC-VANの商流に、FACOM、DEWALT、MOTUL、AUTOGLYMといった充実した商材を加え、安定した経営をサポートしています。



マックメカニクスツールズ株式会社では、地区代理店を募集しています。

MAC-VANビジネス個別説明会、随時開催中です! 0120-371-660
 ご興味ある方は、お気軽にお問い合わせください。 agency@mactools.jp
 ・ホームページからも資料請求可能です。 www.mactools.jp
 ・メールでのお問い合わせ・お申し込みは右上のアドレスまで。
 ・MAC-VANビジネスに興味がある方をご紹介ください。
 ご紹介いただいた方がご成約の場合、MAC工具券10万円分をプレゼントいたします。

